

## 杉並の風日記 R07.11.23



東京デフリンピック 2025\_入場者 10 万人突破！



[Shoheiohtanifamilyfoundation.com](https://shoheiohtanifamilyfoundation.com)

大谷翔平“ファミリー財団”ロゴマーク

連日の“クマ”騒動の真ただ中、週末 2 泊 3 日で秋田市へ技術研修会の講演で秋田市に行ってきました。周囲の人に駅前でも絶対に徒歩では移動すると言われて、散歩好きの僕には拷問のようなタクシー移動の連続でした。ホテルに着いて、玄関の自動ドアに手を触れても開かない、そういえばクマ対策でドアは手動にしてあることに気づいて、手をかけてみたけれど重くて開かない、開店休業かとも思ったけど、気を取り直して腱鞘炎になるほど力で引いたらなんとか開いて一件落着、なんか非日常のような時間でした。とても盛り上がった研修会と懇親会を愉しんで、誰も歩いていない秋田の街を堪能して高円寺に戻ってきました。結構“呑み疲れ”が体に染みついていた感がしばらく残っていたようにも思います。

日本初開催となった聴覚障害者のための国際総合スポーツ大会、デフリンピック東京大会は今日で 9 日目、主催者によると、総観客動員数は第 5 日までに 10 万人を突破し、当初の目標をはるかに超えているとのこと。予想以上の盛況ぶりで、国民の関心の高さを示しているようです。五輪やパラに比べてマスコミの取り上げ方がやや貧弱ですが、各会場とも大人気で入り口には長蛇の列ができ入場規制がかかっているとのこと。ニュースなどで観ていても健常者のアスリートと遜色ないほどのプレーで圧倒されてしまいます。100 年もの歴史のあるこの大会の中で、どうして今まで日本が招致しなかったのか、政治のにおいがプンプンしています。コロナ禍で観客を入れなかった東京オリパラ、目標来場者数を大幅に下げてイマイチだった大阪万博に比べて大会の在り方に一石を投じています。汚職まみれだった東京五輪のスポンサーの在り方もとても健全で、とても魅力的な大会になっています。大会施設や運営にもお金をかけていないので、終わったらとても好感度の高い世界大会になるのでは期待しています。

18日、大分市佐賀関という港町で170棟超が燃える大火災がありました。5日経った今日もまだ完全に鎮火できていないとのことで、景色は先般の輪島の朝市どおりよりも大きな焼け跡の景色になっていました。76歳の男性が死亡し、焼け出されて避難所暮らしの人は180人近くいるそうです。驚いたのは40%が空き家で誰も住んでいない木造の廃屋だったとのことで、その比率はなぜだと驚きました。少子高齢化で住民が街を去っていたのかもしれませんが。最近の日本は冬が近づくと湿度20~30%、それ以下になる日もあり、佐賀関も当日は乾燥していて風速10mの風が吹いていたのが、大きな延焼の原因となった模様です。湿度20%というのは、サハラ砂漠クラスの乾燥で、東京の真冬は1ケタの日もあります。そのうち日本も砂漠化してゆくのでしょうか。

ドジャースの大谷翔平が、自身のインスタグラムで“ファミリー・ファンデーション”を設立したことを発表しました。家族でつくった財団を通じて、子供や動物の支援を行い、社会貢献をしていくとのこと。ドジャースにはチームメートのベッツが今季、フィールド外での社会貢献を評価されて“ロベルト・クレメンテ賞”を受賞しています。ベッツは21年に財団を設立し、家族で難病に苦しむ子供たちの訪問、ホームレス支援などを継続して行っています。正捕手のスミスも21年に妻のキャラさんと“キャッチング・ホープ”という財団を設立し、夫婦で活動しているとのこと。大谷選手自身もこれまで日本の小学校にグローブを寄与したり、ロサンゼルス山火事の際は消防署を訪れたり社会貢献活動をしてきていますが、これからは、真美子夫人らと家族で慈善活動の機会をつくるということなることでしょう。大谷選手自身もメジャーリーグのスーパースターとして、社会に還元する仕組み作りにトライする、素晴らしい活動に期待します。球団との契約で10年1055億円、その他スポンサー契約等で年150億円、我々には想像もつかない金額ですが、財団設立で節税、その分を社会還元してゆくことになるのだらうと思います。通訳による横領やハワイの別荘建設でのゴタゴタの醜聞等もありますが、突然こんなお金が入ると、どうしていいのか分からなくなる、大谷選手としてはそんなトラブルに巻き込まれずに野球に専念したい気持ちがありありと浮かんできます。これからの益々の大活躍を願うばかりです。

何日か前の新聞記事の写真に今回の高市さんの台湾有事を巡る発言から、中国の劉勁松アジア局長という人物が、日本の外務高官に対して両手をポケットに突っこんだまま半ば威圧するような態度をとっていましたが、明らかにわざとやっているのがミエミエでした。とても失礼ではあるものの、それに対して何も言えない日本の外交も弱腰丸出しでたいしたことないよなと感じた次第です。ちょい悪の先輩が後輩を脅しているしぐさに見えないこともありません。この件に関して、今朝の東京新聞“時代を読む”内田樹さんがこんな鋭い洞察をされていました。

時代を読む 11月23日付

中国はどう出てくるのか

内田 樹 — 神戸女学院大学名誉教授・凱風館館長 —

事態の侵攻が速いので、次に何が起きるのかわからない。この原稿紙面に載る時には状況が変わっているのかもしれない。時事を論じる人間にはつらい状況である。

この稿を書いている時点では、高市首相の台湾有事についての発信に対して、まず中国の大阪総領事が「汚い首は斬ってやるしかない」という暴言を SNS に投稿した。中国外務省が国民に訪日自粛を呼びかけた。中国人留学生への渡日自粛が告知された。「中国人を狙った犯罪が多発し、安全リスクが高まっている」というのが理由である。事態收拾のために外務省の局長が中国を訪れて中国のカウンターパートと会談したけれど、中国側は「高市発言はこれまでの日本政府の政策と整合的である」という説明を受け入れなかった。

これらはまだ手始めで、これからさらに実効性のある圧力をかけてくるだろう。最初は厳しい言葉で罵倒し、次には経済制裁を加え、最後は軍事圧力。ふつう国家間の抗争はそういう手順でエスカレートする。だから、できるだけ早い段階で收拾しないと「たいへんなこと」になる。だが、首相にも官邸にも今の段階ではそこまでの危機感があるようには見えない。

中国からの観光客は 2024 年で 698 万人、今年では先月までで 820 万人が来日し、活発な消費活動を行っている。韓国からの 24 年 1 年間の 881 万人に近く、日本の観光業はこの 2 国においてに依存しているのは事実である。中国政府の訪日自粛呼びかけの影響で、中国から日本行き航空便はすでに 49 万件のキャンセルが生じた。これは日本行きの予約の 32% に相当する。日本中の旅館やホテルは団体のキャンセルが殺到して青ざめているだろう。

留学生の足止めも痛い。日本の大学院の在籍者は 25 万 4 千人、うち 10% が中国からの留学生である。大学院に進学する日本人学生の数が減り続けているため（貧しくて学費が払えない、卒業後も研究者として食べていける保証がない）。大学院は中国の留学生で定員を保っていたのである。中国からの留学生が来なくなれば定員割れの研究科が続出し、大学院教育は立ち行かなくなる。



中国は今後、次々とカードを切ってくる。被害が及びそうなのはまだ民間の「弱い立場」の国民だけだから、政府は無視するつもりだろう。だが、水産物に続いて、主要商品の輸出入の停止のカードを切ってきたらどうなるのか。

中国からの輸入は全体の 23% だが、重要鉱物はほとんど依存している。EV モーター、風力発電機、ハイブリッド車、半導体、太陽光パネル、LED…これらの原材料は中国からの輸入品である。供給が止まれば、自動車産業や電子産業は身動きできなくなる。その気配を感じて、原材料を中国からの輸入に依存している企業、中国人観光客の消費行動で売り上げを得ている企業の株価が軒並み急落している。

財界は遠からず首相に「発言撤回」を求めるだろう。首相がどう応じるだろうか。アメリカからも台湾からも首相発言に対しを支持する声はまったく聞こえてこない。海外からの支持がゼロである以

上、首相は日本国内の反中、嫌中世論をかき立てることで延命を図る他ない。だが、株価、国債、通過の「トリプル安」という窮状を排外主義感情だけで生き延びられるだろうか。私は無理だと思う。

僕も高市さんには“発言撤回”が、問題解決の最善の選択だと言いたいです。でも結構時間が経ってしまっているのに、今さら撤回しても逆に赤恥をさらすだけになるかねえ！今回の件での経済損失は2兆円を超えるとのこと。それでも頭を下げようとしないう高市さんを支持している人が60%超えることに驚きです。少し見方を変えた東京新聞“本音のコラム”前川喜平さんの論評もナルホドと感心しました。

「政治国語」を必修に 11月23日付

前川 喜平 — 現代教育行政研究会代表 —

いま議論されている学習指導要領改訂の一つの焦点が高校の国語だ。必修科目の「現代の国語」という「言語文化0-」に近代文学が入っていないことへの批判がある。「論理国語」は「論理学」という別の強化にした方がいい。

日本の子どもの読解力は高い。2022年の国際学力調査PISAではOECD加盟国中2位だった。しかしいくら読解力が高くても、政治家の言葉は理解できない。嘘やごまかし、その場限りの人気取り。根拠のない大言壮語。もっともらしい半可通。そんな言葉に溢れているからだ。

「(中国が)戦艦を使って武力行使すれば存立危機事態になり得る」という趣旨の高市首相発言も半可通の大言壮語の類いだ。こんな妄言は一刻も早く撤回すべきだが、論理的に考えればそんな事態はあり得ない。中国海軍に戦艦はないからだ。

参政党の神谷宗幣代表は代表質問で何度も「脱酸素」と言って、はしなくも脱炭素政策への無理解を露呈した。まともに考えているなら、こんな言い間違いはしない。

「身を切る改革」を叫ぶ日本維新の会は公金還流でわが身を肥やしているし、高市首相の「責任ある積極財政」は「無責任な放漫財政」だ。

政治家の言葉を理解するためには、別の読解力が必要だ。高校生が賢い有権者になるためには「政治国語」を必修にするべきではないか？

中国海軍に戦艦がない、ということを僕はこの記事で初めて知りました。まさか高市さんも知らなかったとは言わせませんが、知らなかったんでしょうね。お気の毒です。

東電の柏崎刈羽原発の再稼働を新潟県知事が容認すると言いました。新潟県下は東北電力から電力供給を受けています。柏崎刈羽原発は東電が関東圏に電力供給をするための施設です。なんか矛盾を感じますが、新潟県知事は再稼働するにあたってもらえる交付金が地域活性化にとっては魅力的なんではないでしょうか。いびつな構造なので、最終決定はぜひ住民に信を問うようなことをしてからにしてほしいと思います。

今日は“勤労感謝の日”明日は振替で世の中は3連休、毎日が日曜日のような僕にはあまりピンときませんが、まもなく12月、1年1日が着実に暮れゆくわが身なり。